



2020・第74回 読書週間が始まっています。



「2020・第74回 読書週間」が(10月27日から11月9日)が始まっています。読書週間の初日の10月27日は、「文字・活字文化の日」と制定されています。今年の「読書週間」の標語は「ラストページまで駆け抜けて」です。

そもそも「読書週間」は、1947年(昭和22年)「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもとに、出版社、取次店、書店、公共図書館、新聞社、放送、マスコミ機関が11月17日から第1回「読書週間」を設けました。1948年から「第2回読書週間」の期間を10月27日から11月9日(11月3日の文化の日を中心にした2週間)と定められ、全国的に広がってきました。

(公益社団法人 読書推進運動協会 ホームページより)

本のページをめくってみてください。きっと新しい世界がひろがります。

図書委員がすすめる一冊



書名:『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』

著者名:プレディーみかこ 出版社:

泣ける度★★★★ 為になる度★★★★★

恐怖度★ 癒やされ度★★★

感銘度★★★★★

あらすじ:アイルランド人の父と日本人の母をもつ「ぼく」が、イギリス・フィンランドでの中学校生活1年半を綴りながら、母である著者のプレディーみかこさんが、イギリスだけでなく世界にはびこる社会問題を書いた作品です。

おすすめコメント:イギリスの中学校で起こる友人の貧困や差別といった場面にぶち当たったとき、なにを考え、どう行動するか、中学生の息子と著者のやりとりから学ぶことが多い。そこを客観的になって読んでみたら社会問題もさらに関心が持てると思います。
(1D 尾家陸斗)

